

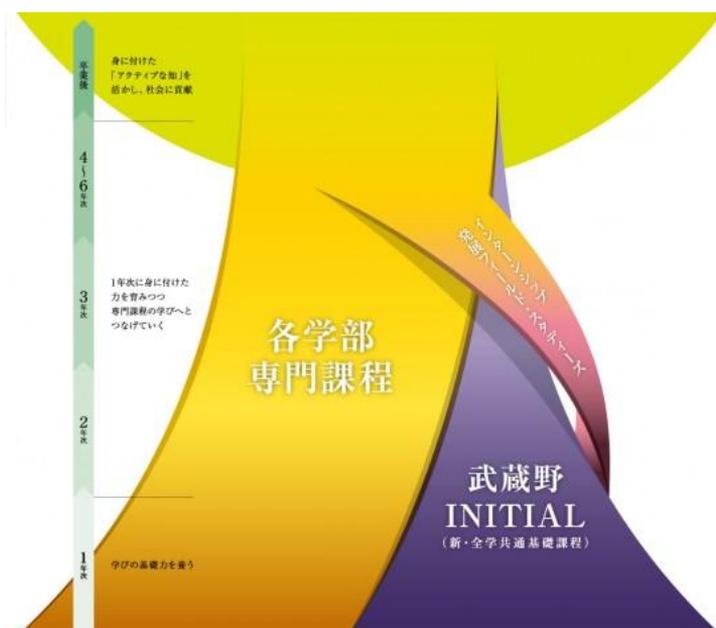


武蔵野INITIALとは

「アクティブな知」につながる学び

「武蔵野INITIAL（イニシアル）」では、学問の広大さ、私たちの非力さ、そして知が広がる躍動を体感し、疑問を掘り下げ、それを言葉で表現する苦勞を体験します。それが専門課程での学びと「アクティブな知」へと、つながります。

専門の学びと結びつくことで「アクティブな知」につながるプログラム



武蔵野大学では、全学生が1年次に全学共通の基礎課程「武蔵野INITIAL」を履修します。INITIALとは「最初の」「はじめの」等の意味をあらわすことばです。これは、皆さんが社会の中核として活躍する2050年の未来を想定して、世界の諸課題を担い解決していける人材となるための学びです。社会に出たら課題とその答えが用意されているわけではありません。自分で気づき、自分で答えを探ることが求められます。自分で発見し、「なぜか」と問いを立て、情報を収集・分析して、最適だと思われる答えを提案する（カタチにする）。こうした行動を主体的に行うためには、自ら気づいて問題意識を持つために「視野を広げること」、情報を収集・分析するための「スキルを身に付けること」、答えをカタチにするための「行動力を持つこと」が必要であり、それを学ぶのが「武蔵野INITIAL」です。学科の専門課程の学びと融合することで、社会で活躍するための力となる「アクティブな知」へと結実するはずです。

武蔵野INITIAL科目群の概要

心とからだ	建学	本学の建学の精神を学び、高い倫理観と慈悲の心を身に付けるとともに、自らの生き方を考える
	スポーツ・身体 ※	正しい身体動作の方法と意義を、実技を通して学修し、生涯を通じた心身の健康増進のための「身体知」の導入を図る
学びを深める力をたくわえる	アカデミック・スキル	レポートや小論文を書く際に大学生として求められるマナーやスキルを身につける
	情報	AI（人工知能）や最新のツールを自ら取り入れて活用する力を身に付ける
	外国語 ※	英語（必修）および中国語・韓国語・スペイン語・フランス語・ドイツ語（選択）等を学び世界に視野を開く 伝えたいことを誤解を招くことなく伝える
問いを深める考えを伝える	日本語・日本事情 ※	日本語の文章作成能力を修得し、文章を書くにあたっての倫理的な心構えと作法を学ぶ
	Creating Happiness Program (CHP)	SDGsの理念を学び、自ら問題意識を持って主体的に学ぶ姿勢と実践力を身に付ける
	フィールド・スタディーズ ※	社会を見て、体験し、自らの専門の学びの有用性を感じ、将来のキャリア選択のきっかけとする
	フィールド・スタディーズ 発展(発展FS) ※	SDGsの理念を実現するために、実社会の問題を体感し、解決策を提示していく
	全学教養講座	人文学、芸術学、社会科学、自然科学等様々な分野で行われている新しい研究の一端に触れることで、大学での学びにふさわしい広い知的視野を獲得する
インターンシップ ※	就業体験を通して自らのキャリアや卒業後の進路について考えるきっかけにする	

※ 通信教育部 国際データサイエンス学部は、「スポーツ・身体」「日本事情」「フィールド・スタディーズ」「フィールド・スタディーズ 発展(発展FS)」「インターンシップ」科目群は開講されません。なお「外国語」は、英語のみ開講されます。

(1) 建学



建学科目では、本学の建学の精神を学び、高い倫理観と慈悲の心を身に付けるとともに、自らの生き方を考えます。建学科目の学びでは、仏教の学びが中心となりますが、いずれの科目においても、「学（学問）」と「行（実践）」という二つのアプローチが重視されています。さらに、教義や文化として仏教を学ぶだけでなく、現代社会の直面する様々な課題の解決に、仏教の知見を役立てることができるのか、という視点も常に意識することになります。これこそが、学祖の高楠先生が仏教精神を本学の教育理念に据えた、深いお心に通じるものと考えています。

仏教（生き方を考える）基礎	学祖高楠順次郎先生の生涯及びその思想を学修し、学祖の拠り所とした仏教の開祖釈尊（ブツダ）の生涯とその基本的な教義を学修します。
仏教（生き方を考える）発展	「仏教（生き方を考える）基礎」で学んだ、釈尊（ブツダ）の生涯や仏教の基礎的な教義などを土台に、現代社会が直面する様々な課題の解決に、仏教の立場から資するところが有りうるのか、という関心から考察を深めた学修をします。
仏教幸福論 ※	武蔵野大学のブランドステートメント「世界の幸せをカタチにする。」の中心概念である「幸せ」について、建学の精神である仏教の立場から、幸せに関わる周辺概念とともに学修し、学修者が「世界の幸せ」を「カタチにする。」ために、何ができるのか等を考えます。
仏教（自己を見つめる）※	仏教の基本的な知識の修得を通じて「自己のあり方」を考え、自己を見つめ直す手がかりを見つけることを目的とし、人間の心の本質を探究しながら総合的視野で深く人間を考えます。
共生の原理（仏教縁起論）※	多様な要素、対立しあう要素を、いかに個々の多様性を尊重しつつ、調和させ、「一つ」にまとめていくか、そのための智慧を仏教やインド思想から学修していきます。現代における個人のあるべき姿と、個人と社会とのつながりを、仏教に基づく「共生の原理（仏教縁起論）」という視点から考えます。
現代社会と仏教 ※	現代社会における諸問題に対して、仏教の思想・文化・伝統等がいかなる視座をもたらすことができるのか、仏教の現代的意義を学修します。学修者自身が、主体的に現代社会における問題をとらえ、その解決に資する仏教の可能性について考えます。
仏教カンファ ※	本科目では、建学の精神である仏教（とくに日本仏教）が、どのように世界に広がっているか、あるいは、世界からどのように見られているかについて、多角的な視点で学修します。あわせて、仏教の意義と可能性をグローバルな観点から考えます。
仏教総合 ※	仏教の開祖である釈尊入滅後、世界各国に広がった仏教について、本学と関わりの深い浄土真宗の教えにも射程を広げて学修し、総合的な観点から仏教（生き方）を考えます。

副専攻“仏教プラクティスコース” ※

このコースでは、建学の精神の根幹をなす仏教を、仏教の学びの両面とされる「学（学問）」と「行（実践）」の二つのアプローチから学びます。

このコースの特徴は、仏教の学びを通して、現代社会の直面する様々な課題の解決に、仏教の視座や伝統が一つの有効な役割を果たす可能性を追求することにあります。今日、仏教的なもの見方が世界の思想家・実業家・活動家たちの耳目を集めていることに促されたコース開設とも言えます。

このコースには、専門の重なりが大きいウェルビーイング学科を除く全学科の学生が参加することができます。指定科目（計12単位以上）を修得した学生に「コース修了証」を大学卒業時に発行します。

※ 通信教育部 国際データサイエンス学部は、副専攻は対象外となります。なお、以下の6科目は開講されません。

「仏教幸福論」「仏教（自己を見つめる）」「共生の原理（仏教縁起論）」「現代社会と仏教」「仏教カンファ」「仏教総合」

(2) スポーツ・身体

(全学部1年次 選択科目)

「スポーツと身体科学」 ※対象外科目

「スポーツと身体科学」ではスポーツに加え、「東洋的コンディショニング(坐禅・ヨガ)と筋力トレーニング」と「合気道」を実施します。身体活動を通して深い呼吸、精神集中、脱力を学び、心の豊かさ、根気、寛容、協調などの精神心理面の鍛錬を図るとともに、ウェイトトレーニングを用いることで、筋力の増大・増量と健康づくりを目指します。

※授業の半分は全員が坐禅、ヨガ、筋力トレーニングを受講します。残りの半分は、「スポーツ科学6種目」(筋力トレーニング・バスケットボール・バレーボール・テニス・合気道・フィールドスポーツ)から1種目を選択し受講します。

[坐禅]

姿勢、目や口の中の状態、手の組み方、意識を置く場所について実践を行い、坐禅の基本である「調身」「調息」「調心」を学びます。

[ヨガ]

ヨガを呼吸の原理、視覚の働き、体性感覚(深部感覚・触覚)の役割などから捉え、感覚の入力・統合・出力を通じて自己の身体と向き合い、「気づき」を高め、理論と実践から姿勢と心の安定を体得します。

[筋力トレーニング]

筋力強化、心肺機能向上、身体調整のマシン(約50台)を用いて、姿勢や身体を動かす源となる構造や組織の強化を図ります。

[合気道]

深い呼吸と脱力に基づく合理的な身体の使い方を身につけます。また技の修得を通して、心身の統一と自他を尊重する精神を学びます。

[スポーツ]

身体活動から様々な精神的作用を高揚させるとともに、スポーツ科学の知識・概要を学びます。

(3) 情報

文理問わず全学生が、AI活用の基礎を必修科目として学びます。また、サブメジャー（副専攻）として「AI活用エキスパートコース」の選択履修が可能に。主専攻とAIを融合できる人材を育成します。

特定のソフトの使い方にフォーカスした学びとは違い、次々に出てくる新しいツールを使いこなすコツや、欲しいツールを自分で作れるようになるプログラミングの基礎、ネット社会で自分の身を守るための知識などを学びます。また、今後は多くの分野でAI（人工知能）を利用する機会が増加し、皆さんが学ぶ専門分野とAIとの関係を理解することが重要になります。武蔵野大学は他の大学に先駆けて、AIの基礎を学ぶ科目を全学必修とし、皆さんが将来活躍する分野でどのようにAIを活用できるのかについて考えます。これらの学びは、将来どのような分野に進んでも、皆さんにとって強力な武器となるでしょう。



(全学部1年次 必修科目)

「データサイエンス基礎」 ・ 「人工知能基礎」

これからの大学生に必須の「数理・データサイエンス・AI」スキルを学ぶ

数理・データサイエンス・AI分野で新たに提唱されているモデルカリキュラムに対応した授業です。データサイエンス基礎では、社会に溢れているデータを収集するだけでなく活用できる基礎的な知識とスキルを実践的に学びます。人工知能基礎では、ヒトがAIを利活用するために必要な、AIの仕組み、社会的意義、今後の可能性についての基礎知識および利活用スキルを実践的に学びます。

(1年次 選択科目)

「情報技法基礎」 ※対象外科目

ロジカルシンキングとデザインシンキングで提案力を高める

膨大なデータを多面的に分析し、そこから組み立てた企画アイデアを論理的に伝え、実現につなげる手法を学びます。現実の店舗の年間売上データを使った演習を通じ、実践的に基礎を身に付けます。

※アントレプレナーシップ学部のみ1年次 必修科目

(1年次 選択科目)

「プログラミング基礎」 ※対象外科目

使いたいツールを自分で作る力を身に付ける

目的に応じて自分でソフトウェアを制作するための思考法、技法、ツールの使い方を学びます。感覚的に学べるので、文系学部生にとっても面白い授業です。

※アントレプレナーシップ学部のみ1年次 必修科目

副専攻“AI活用エキスパートコース”

データサイエンス・機械学習の専門的なツールを活用して実社会の問題解決を実践的に行うことができるエキスパートになることを希望する全学部生（データサイエンス学部を除く）について、指定科目（計12単位）を修得した学生をコース修了認定します。



副専攻（AI活用エキスパートコース）で定めた12単位を修得した学生に対して、「コース修了証」を大学卒業時に発行します。

副専攻(AI活用エキスパートコース)



※ 通信教育部 国際データサイエンス学部は、副専攻は対象外となります。なお、以下の2科目は開講されません。
「情報技法基礎」 「プログラミング基礎」

(4) Creating Happiness Program (CHP)



SDGsとは、Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）の略称です。2015年9月の国連サミットで採択されたもので、持続可能な社会をつくるため国連加盟193カ国が2016年～2030年の15年間で達成するべく掲げた国際社会共通の目標です。SDGsの掲げる「誰一人取り残さない」という基本理念は、武蔵野大学の建学の精神と共通します。そのため、SDGsに基づいた授業「CHP」で個々の学生が問題意識を持って、主体的な学びと実践の姿勢を身に付けられるようにします。

SDGs基礎	「世界は幸せか」を問うとともに、グループワークやチーム作りなど、学びの基礎力を身に付けます。
SDGs発展1・2・3	SDGsの17目標（169ターゲット）に対応した授業で、それぞれのテーマを掘り下げます。世界の課題に気づき、世界と自己の関係を考え、自身の問題意識を醸成します。
SDGs特講	世界の幸せをカタチにしていくために、多様な学問の見方・考え方を学ぶとともに、実習やディスカッション、グループワークなどを交え、「しあわせ」についての理解と考察を深めます。

(5) フィールド・スタディーズ

「フィールド・スタディーズ」 ※対象外科目

国内外70以上のプログラムから自ら選択し、大学を飛び出して実践的に学びます。例えば、1ヵ月かけて地域活性化事業の企画を考えたり、特色ある自治体で就業体験をしたりと、武蔵野大学独自の学びの機会を提供しています。

「フィールド・スタディーズ発展(発展FS)」 ※対象外科目

企業・自治体・団体と連携した産学・官学連携のプログラムや、国内・国外の修学関連施設を訪れ、学びの理解を深めるプログラムなど、多種多様なプログラムが用意されています。学科の専門に捉われない学部学科横断型タイプと、身に付けた専門の学びを学外で実践的に発揮して専門性を高める学科限定型タイプがあります。いずれも、SDGsの指標を実現するため、上級学年で受ける専門教育と社会とのつながりをより明確に理解し、社会の課題に対して解決策を提示し、世界の幸せをカタチにするHappiness Creatorを育成していく事を目的とした学外学修科目です。